

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200291
法人名	有限会社ハート
事業所名	グループホーム 安庵
所在地	佐賀県唐津市佐志1156番地26 (電話)0955-79-7017

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年8月26日	評価確定日	平成20年11月14日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	11 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 15 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4)利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岩本内科 松浦歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東松浦半島の高台に建つ平屋建て2ユニットのホームである。ホームからは唐津城をはじめ唐津市内や虹ノ松原が一望でき、広い空と海は入居者や来訪者の眼を楽しませている。2ユニットとも居間が広くて明るく、殆どの入居者が居室ではなく居間で寛いでおられる。運営は職員と共に入居者を主体にしたケアに取り組んでいる。ケアプランの毎月の実施表が完備されている。実施プランは毎日評価されていて、出来ていない分はその理由を考えケアに活かしている。ホーム内は不快な臭いが無いように消毒や換気を心掛けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果は、職員の勉強会や運営推進会議で取り上げている。改善課題となった同業者との交流では、ネットワークづくりを市に相談するなどサービスの改善に向け取り組んだ。また、運営推進会議の充実に取り組み、委員との協働で地域交流が活発に行われるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と職員が協力し、共に取り組んだ。地域密着型サービスの確認とケアの振り返りや見直しにつなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価や自己評価の結果を報告し、事業所の取り組みを説明している。日頃の取り組みや行事報告、行事計画について報告されている。事業所と住民とのお互い頼みやすい環境づくりに活用され、防災訓練の経過や内容を知らせたり、行事参加の呼びかけを行うなど、地域の方々との交流の基にもなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りを毎月発行し、家族に入居者の暮らしぶりを伝えている。家族の面会時に管理者は話をする事を心掛けており、多くの情報を得る努力をしている。入居者別に担当職員が決まっており、面会の少ない家族には電話で連絡をとり、情報交換している。家族からの意見は検討会議に諮り、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	文化祭や運動会・花火大会など、地域の祭りや行事などに積極的に参加し、地域住民と交流することに努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい暮らしを支える介護を目指すとともに、地域を意識した事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内複数個所に理念を掲示しており、理念の共有に努めている。管理者は日々の業務を通して、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭や運動会・花火大会など、地域のまつりや行事などに積極的に参加し、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は、職員勉強会や運営推進会議で取り上げた。改善課題となったものは検討を重ね、同業者とのネットワーク作りを市に相談するなどサービスの改善に向け取り組んだ。外部評価・自己評価の実施を機会に、評価の意義を理解しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日頃の取り組みや行事報告、行事計画等について報告されている。事業所と住民とのお互い頼みやすい環境づくりにも活用され、防災訓練の経過や内容を知らせたり、行事参加の呼びかけを行うなど、地域の方々との交流の基にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員との情報交換はあるが、市の担当者と交流する機会は少ない。	○	市にホームの実情を理解してもらい、お互いの信頼関係を築けるよう行政担当者との交流が重要と思われる。地域密着型サービスの役割を踏まえ、一層の協働関係が築かれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	活動報告や活動予定が記載されたホーム便りを毎月発行している。ホーム便りは一般用と個人用の2枚からなり、個人用には入居者本人の日常の様子が写真とコメントで報告されている。入居者には担当職員が決まっており、面会の少ない家族には電話で連絡をとり、情報交換している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所における悩み・苦情相談窓口及び、外部の苦情申し立て機関を明記し、家族に説明している。投函箱も設置されている。頂いた意見は検討会議に諮り、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの特性を考え、職員の異動は最小限に抑える努力をしている。職員が代わる場合は入居者に知らせるなど、入居者との馴染みの関係を重視した対応を心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内部研修を開催している。外部研修会の開催情報は職員に伝えられ、希望すれば勤務調整をし、できる限り参加できる様に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所として地域の同業者とのネットワークづくりや勉強会はないが、個人的に交流し情報交換している職員はいる。運営者は同業者とのネットワークづくりを市に働きかけたり、地域の同業者に声をかけるなど努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学を通して十分な説明をしたり、入居者とホームの雰囲気を知ってもらうなど、安心して入居できる支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	習字や俳句・吟詠、園芸など入居者と職員は共に教えあいながら活動している。戦争体験やもったいない精神など、人生の先輩として教えられることも多く、職員と共に支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常のケアの中で入居者と話すことを心掛けており、会話の中から思いを汲み取るように努めている。会話の少ない入居者には言動や様子から思いを察知したり、家族の面会時に情報を得る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族からの要望を聞いた上で、職員や主治医が話し合って具体的な介護計画が立てられている。職員は日々のケアの中で入居者の変化を敏感に感じ取るようこころがけ、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しと、状態の変化があった時はその都度ケアマネージャーや計画作成担当者、家族等と話し合いが持たれ、見直しが行われている。介護計画に沿った評価も行われ、介護計画の見直しに活用されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や入居者本人の要望で、病院の送迎や外出支援など柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への継続受診を支援し、安心して医療を受けられる体制ができている。通院などの送迎は本人や家族の要望に添って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針があり、入居契約時に家族に説明している。医師とも相談し、入居者や家族の意思を確認するように取り組んでおり、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム便りは一般用と個人専用に分けて作成し、プライバシーに配慮した取り組みがなされている。顔写真などは、家族から掲載承諾を得た方のみを掲載するなど、個人情報の取り扱いも慎重に対応している。入居者の呼び名は家族や本人の希望に添い、一人ひとりの気持ちを尊重した言葉掛けをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決まっているが、それに囚われる事無く入居者の希望を大切に支援を心掛けている。歌を歌ったり運動への参加などは自由で、散歩や買物など個人の希望に添った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや後片付けなど、入居者ができることは職員が見守りながら支援している。入居者は会話をしながら食事をされているが、職員は食事介助で食卓に着いているのみで食事は別に摂っている。大多数の入居者が食事エプロンを使用している。	○	共に暮らしている家族の一員として、職員と入居者が一緒に食事を摂れるような食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望がある場合、入居者は毎日の入浴が可能である。入居者に合わせてシャワーや清拭の対応もなされている。入浴を拒む入居者には無理強いせず、時間や順番をかえたり職員の声掛けで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字やミシン掛け、草取り、お茶碗洗い、挨拶の声掛けなど生活歴を活かした役割や楽しみごとがあり、入居者主体の支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩など入居者が希望されれば職員はできる限り支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間のみで日中は施錠しておらず出入りは自由である。職員は常に入居者の状況を把握するように心掛けて支援している。玄関にはセンサーが付いており、人の出入りが気づきやすい工夫がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の避難訓練が年2回行われている。ホーム真向いの福祉施設とは災害時の協力体制ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を基に作り、摂取量は毎食毎に記録して栄養バランスの把握はできている。水分はいつでも飲めるように支援されている。飲む量の少ない入居者には気分が変わるときに勧めるなど工夫し、1日1.5ℓの水分摂取を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはソファや椅子が多数置かれ、入居者は思い思いの場所で寛ぐことができている。空気清浄機を使用したり、窓を開け放ち換気を心掛けている。年中行事に参加したり、旬の食べ物や花で季節感を感じられるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は希望の品の持込みが可能である。テレビやミシン、机や椅子、テーブルとダンスなどを持参している入居者もいる。写真や手芸品、人形などが飾られ、その人らしい居室作りが支援されている。		